

第4学年 ハヤチネタイム学習活動案

日時 平成17年 9月16日(金) 6校時
児童 男子3名 女子6名 計9名
授業者 佐々木 和彦
場所 パソコンルーム

1 単元名 めざせ、稗貫川チビッコ博士

2 単元について

稗貫川は、北上山地の最高峰である早池峰山に水源を發し、北東から南西に大迫町の中心部を貫き、石鳥谷町を通り、北上川に注ぐ流域面積262.5km²、流路延長38.0kmの1級河川である。古くは、岳川と呼ばれていたが、平成12年の早池峰ダム竣工に伴い、ダムより上流を岳川、下流を稗貫川と呼び分けている。稗貫川は、鮎をはじめ山女や岩魚など多種類の魚が棲んでいる。また、児童の夏の遊び場所としても、生活を支える水道用水や灌漑用水としても、地域に欠かせない大切な河川である。地域の生活に密着している稗貫川を学び深めることは、身近な自然に対する理解と認識を新たにし、「ふるさと」の素晴らしさやよさを誇りに思い、大切にしようとする気持ちを育てるためのよい機会になると考えている。

児童は、1学期の単元「早池峰学習登山を成功させよう！」において、早池峰山の貴重な植物や地名についての学習をしてきた。この学習をとおして、友だちの調べ方や発表のよさについて気付く力や調べた内容を自分の言葉に直して理解し、分かりやすく伝える力をつけてきている。稗貫川に関する事前調査の結果、これまで、川遊びをしたことがない児童は1人である。他の8人の児童は、「自分の家の下の川」、「早池峰ダムの下流」など稗貫川での川遊びを経験していた。児童がもつ稗貫川のイメージは、「水がきれい」と全員が答えている。しかし、川遊びはしているものの、魚を実際に捕まえた経験をもつ児童は少ない。また、稗貫川の魚は、川の環境によって棲み分けしていることに気付いている児童はいないことも分かった。

そこで、本単元では、初め、学校近くの稗貫川での川遊びの活動を十分に行い、お互いの気付きを交流することから、学習課題を設定していきたい。これまでのハヤチネタイムの学習では、個人課題を中心に調べ活動を行ってきたが、本単元では、テーマごとにグループを組ませたいと考える。グループごとの学び合いの場面を設定し、「早池峰学習登山を成功させよう！」で学んだ、友だちの調べ方や発表のよさを生かし、協力しながら一つのテーマをまとめあげる経験を積ませたい。まとめの発表会は、町内外の教員の方々に対して発信する予定であることから、相手意識をしっかりともち、「ふるさと」の川の素晴らしさを伝えるという目的意識を明確にした発表をさせたいと考える。そのため、コンピュータによる視覚的なプレゼンテーションに取り組み、「事実」と「根拠」及び「自分の考え」を、分かりやすく、印象的に伝えることができる発表会を目指したい。稗貫川の素晴らしさについて発信するために、自分の追究結果を再構築していく活動をとおして、「ふるさと」の川に対する理解と認識をより一層深め、地域社会に対する誇りをもたせたいと考える。

3 単元のねらい

<気づく力>

- ・川遊びをすることにより、稗貫川の魚や水生生物及び周辺の自然などにあらためて関心をもち、調べ学習をとおして、自分たちの生活を支えている川の姿に気付くことができる。

< 課題解決の力 >

- ・ 稗貫川について学習課題を決め、グループで学び合いながら追究活動を行うことができる。
- ・ 学習課題について、自分たちが考えた方法で追究活動を行い、自分の考えを加えながらまとめることができる。

< 表現する力 >

- ・ 稗貫川の素晴らしさについて、聞き手が「なるほど」と思うように、「事実」と「根拠」を明確にした印象的な発表を行うことができる。
- ・ コンピュータを使って、「分かりやすく」、「印象的」、「効率的」に発表することができる。

4 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
気づく力	川遊びをとおして、稗貫川についての気付きを交流し合い、自分の学習課題を決めることができる。 稗貫川について、疑問に思ったことの中から調べたい理由を明確にして、学習課題を決めることができる。 同じ学習課題をもつ友だちとグループを組んで、調べ学習を進め、友だちの調べ方や発表のよさについて気付くことができる。 自分たちの生活を支える稗貫川の姿について気付くことができる。
課題解決の力	課題解決のための方法を友だちと相談したりアドバイスを受たりしながら自分で考えることができる。 課題追究の方法を工夫しながら必要な資料を積極的に探し、調べ学習を行うことができる。 調べたことについて、「自分の考え」を加えながらまとめることができる。 中間発表会を振り返り、見直したり、修正したりすることができる。
表現する力	稗貫川について調べた結果で、分かったことや明らかになったことを、「自分の言葉」に直し、相手に分かりやすく順序を考え、構造化しながらまとめることができる。 「事実」と「根拠」を明確にして、相手が「なるほど」と関心をもつような発信の仕方を工夫することができる。

5 単元活動計画 (計30時間)

[]は時数

段階	時	ねらい・学習活動・内容	評価
気づく	(5)	川遊びや水質調査などの体験活動をとおして、これから調べ学習を進めていく内容に関心をもつことができる。 (1)川とふれあおう ・川遊びを楽しむとともに水質調査を行う。〔3〕 ・魚捕りの方法を考え、実際に魚を捕ってみる。〔2〕	< 気 - >
いただく	(3)	体験活動を想起しながら、自分の調べたい課題をもって解決の方法を考えて計画することができる。 (1)個人課題を決めよう ・イメージマップに不思議に思うことや、調べてみたいことを書き出してみる。〔1〕 ・自分の一番調べたいことを、理由を明らかにして学習課題を決める。〔1〕 (2)学習計画を立てよう ・個人の学習課題から、グループ分けをする。〔1〕	< 気 - > < 気 - > < 課 - >

活動する	(12)	<p>計画に基づいて進んで調べ学習をすることができる。</p> <p>(1)課題に沿って調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考図書、インターネット、インタビューなどで課題を追究する。〔4〕 <p>(2)調べて分かったことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や絵、グラフなどいろいろな方法を考えて分かりやすくまとめる。〔5〕 ・分かったことや調べた感想などをまとめる。〔1〕 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(3)中間発表会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで調べてきたことを聞く人に分かりやすく発表する。〔1〕 ・質問を受けたり、感想を聞いたりして、さらに調べたいことを見付ける。〔1〕 </div>	<p><気 - ></p> <p><課 - ></p> <p><課 - ></p> <p><表 - ></p> <p><気 - ></p> <p><課 - ></p>
深める	(5)	<p>自分の解決方法のよさや問題点に気付き、内容を見直したり修正したりして、さらに調べ学習を進め、理解を深めることができる。</p> <p>(1)見直しをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会を振り返り、調べた内容を見直したり、修正したり、さらに付け加えたりすることができる。〔5〕 	<p><課 - ></p>
広める	(5)	<p>学習したことを生かして、地域や地域外の人に発信することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1)まとめの発表会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの発表会に向けて、発信の準備を行う。〔3〕 ・稗貫川の追究結果について、まとめの発表会を行う。〔1〕 本時 </div> <p>(2)今までの学習を振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を振り返る。〔1〕 	<p><表 - ></p> <p><気 - ></p>

「注」○はねらい、()は学習活動、・は内容、ゴシック体の部分は学団の重点目標を示す。

6 本時の学習

(1) 仮説とのかかわり

本時は、仮説2にかかわり、学びを自分のものにするための単元のまとめの部分における発表や情報発信の工夫の場面である。まとめの発表会は、町内外の教員の方々に対して発信する予定であることから、稗貫川について知らない人もいるという相手意識をしっかりとめさせて発表内容を構成させたい。また、「ふるさと」の川の素晴らしさを伝えるという目的意識を明確にした発表をするため、稗貫川や魚・水生生物などの写真や画像などを豊富に取り入れた発表に取り組みせたいと考える。そのため、コンピュータを活用し、その特性である視覚的効果を生かし、分かりやすく、印象的な発信になるように心がけさせたい。また、聞き手も積極的に参加できる工夫を取り入れ、一体感のある発表会を目指したい。

(2) 学習のねらい

- ・町内や町外の人たちに対して、稗貫川の素晴らしさについて、分かりやすく、印象的に伝えることができる。(表現する力)

(3) 学習の達成目標

- ・稗貫川の素晴らしさについて、コンピュータの視覚効果を活用して、分かりやすく、印象的な発表をすることができる。

(4) 本時の展開

(・は活動のねらい、*は教師の支援、 は評価を示す。)

段階	学習活動の流れ	ねらい・支援・評価
導入 5分	<p>1 学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 稗貫川の素晴らしさを発表して、たくさんさんの「へえ～」をもらおう。</p> </div> <p>2 発表する視点、発表を聞く視点を確認する。 (1)「へえ～」ボタンの操作の仕方を説明する。</p>	<p>・本時のめあてをつかませる。</p> <p>*本時の流れを知らせるとともに、発表するときには、分かりやすいような速さと言葉の使い方で発表し、聞き手が「なるほど！」と思ったしるしである「へえ～」ボタンをたくさん押しってもらうことを確認し、活動への意欲をもたせる。</p> <p>*中間発表会と比べて、友だちの発表で工夫を重ねた点や改善した点に気を付けて聞くことを知らせる。 大きく、張りのある声で、めあてを復唱することができたか。</p>
展開 30分	<p>3 グループごとに発表を行う。</p> <p>(1)稗貫川の魚について (2)稗貫川の水利用について (3)早池峰ダムについて (4)稗貫川の水質や水生生物について</p>	<p>・稗貫川を知らない人はもちろん、地域の人も「なるほど！」と思うような素晴らしさについて、コンピュータを効果的に活用して、分かりやすく、印象的に発表させる。</p> <p>*子どもの発表がめあてに沿って進められているか観察し、助言したり、支援をしたりする。</p> <p>*進行の様子やコンピュータの操作について、困っているようなときには、助言や支援を行うよう留意する。</p> <p>*聞き手に、グループの発表が終わるごとに、感想や質問をしてもらい、活動への意欲や発表への充実感を味わわせる。 稗貫川を知らない人はもちろん、地域の人も「なるほど！」と思うような素晴らしさについて、発表の方法を工夫して、伝えることができたか。</p>
終末 10分	<p>4 まとめをする。</p> <p>(1)めあてが達成できたかを確認をする。 (2)友だちのがんばっていたこと、自分が上手にできたことなどについて感想を発表する。</p>	<p>・自分や友だちのがんばりを認め合うことにより、本時の活動を振り返り、次時の意欲を高めさせる。</p> <p>*児童のがんばりを認め、活動への価値付けを行う。</p> <p>○自分や友だちの発表会に向けた努力や発表の工夫について気付くことができたか。</p>